



八咫鳥

やたがらす

今、天あめより八咫鳥を

遣つかはさむ。

（古事記）

兄を突然失った神倭伊波礼かむやまといわれ毘古命びこのみことは、混乱していました。「これからの私は、何を支えとして、誰に相談しながら東を目指せばよいのだろうか」神倭伊波礼毘古命が絶望して空を仰ぐと、目の前には、異様な輝きを放つ剣が舞い降りてきたのです。あの大国主神おおくにぬしのかみに国譲りをさせた、建御雷神たけみかづちのかみの太刀でした。

そして大きな鳥が上空を旋回しているのに気づきま

した。「なんだろう、あの巨大な鳥は」神倭伊波礼毘古命が手をかざして見上げたその瞬間、天照大御神あまてらすおおみかみと高御産巢日神たかみむすひのかみの声が天から響き渡ったのです。「天あまつ神の御子よ、その八咫鳥がお前を導くだろう。八咫鳥の案内に沿って進みなさい」その鳥の後を追うと、山野を抜けついに奈良にたどり着いたのです。